

宇宙で膨らませてきたアマテラスのエネルギー - 、素晴らしい、素晴らしき神として崇めそのパワー - を求め求めてきました。この地球上でそのエネルギー - を使うなんて容易いことでした。宇宙で使ってきた、流してきたエネルギー - に比べたらなんていうことでもないものでした。宇宙を思いアマテラスを思うと私のこの体はずっとずっと遠くに遠くに上へ上へと飛んでいきそうです。すべてを蹴散らして蹴散らして我のみでした。我一番、そしてその思いは本当に破壊以外のなにものでもないのです。アマテラスのエネルギー - は皆殺しのエネルギー - でした。冷たい冷たい氷の固まりでした。宇宙の果てから果てへと私はずっとこのエネルギー - の固まりのままずっと存在していました。私はアマテラスそのものでした。アマテラスを神としていえ我こそ神なりの思いですずっと存在している意識でした。

私は何も知りませんでした。何も気付きませんでした。その自分の存在が田池留吉の愛の波動の中で包まれていたなんて、すべてを許されていたなんて、田池留吉がいつもいつも見守ってくれていたなんて知るはずもありませんでした。だけど私は気付かせてもらったのです。無条件のただただ温かい温かい温もりを私はこの心で感じさせてもらったのです。だから私は帰りたいと思いました。ともに帰りましようと言ってくれたその温もりを私は忘れることはでき

ませんでした。私はアマテラスとともに帰りたいと思いました。帰ろう、いっしょに帰ろうと思いました。私達は帰るところがあったのです。いつでも帰っておいでと迎えてくれるところがあったのです。アマテラスといっしょに戻ってきなさいと田池留吉は伝えてくれました。エルカント - レを飛び出して今やっとやっとうして出会えたたくさんの宇宙の友、すべては自分が決めてきたことでした。田池留吉が肉持つこの時に私はやっと自分の心の原点を思い出すことができました。

未来は瞬く間にやってきます。そして4次元へと私達は移行していくのです。次の次元での修業が始まります。それはもちろん田池留吉そしてアルバ - トなる意識とともに歩いていく道です。地球は私達にとっては素晴らしい所でした。ありがとう、地球。そしてさようなら、地球。